

「かごめ」は野田の唄!?

昭和初期に小学校の先生が採譜していた

岩波書店の『わらべうた』（一九八三年・初版）には譜面とともに、こう書いている。野田だって。そんなことはないよ。子どものとき、皆で歌ったよ。だれも、そう思うに違いない。解説は続く。関東地方を中心に全国に分布し、歌詞も曲折も大同小異であるが、：：：それなら野田を特定することはないよ。うだが、昭和初期に野田の小学校の先生だった山中直治（一九三七年、31歳で死去）が採譜していたので、野田地方の唄とされた。その作曲家山中の存在が野田市で復活したのは最近のことである。

かごめかごめ 野田町（現、野田市）
地方の唄。同じく人当て鬼の唄。

かごめかごめ

かアごめ かごめ
かアごの中鳥は

いついつ出やる

夜明けの晩に

鶴と亀とすうべった

「うしろの正面だあれ」

『わらべうた』（岩波書店）

写真 野田市が町起こしの
ために建てた「かごめ像」。
いつまで目隠ししやアる！



童謡はわざうた、わざわいを歌った

古事記の崇神天皇の項に、なぞめいた歌をうたう少女が出てくるが、日本書紀では、童謡（ワザウタ）と言う言葉が出てくる。「人事を風刺し、時の異変の前兆などを暗にうたう歌」を意味した。蘇我臣入鹿が山背王を誅するときに、意味不明の童謡が歌われたのが最初である（巻24）。意味不明で、ワザワイをもたらず歌、その代表が「かごめかごめ」とされている。

もと歌は、江戸のわらべ唄を集めた本で、終りの「後ろの正面」が「なべのなべのそこぬけ、そこぬいてたアもれ」となっている。

ぐるぐる回り 神が口寄せした

民俗学者の柳田国男は、「かごめを鳥のようにも考えられているが、屈めの一人は小仏であり地蔵である」という。ぐるぐる回っているうち、地蔵が乗り移り託宣する、つまり神の口寄せが起源とする。

輪遊びではなく、くぐり遊びだったという説がある。二人が向かいあって両手を取り、歌い終わると手を上げ、かがんでいた子が飛び出し、他の子と入れ替わる。それが原型で、小仏も地蔵もなかった、という。